

りんご栽培技術情報

～早生品種の収穫前管理～

早生品種～「紅いわた」の収穫期は、平年より早まっています。

- ★見直し摘果、落果防止剤の散布、収穫前の着色管理など遅れのないよう実施し、品質の良いりんごを収穫しましょう。
- ★日焼け果の発生が増えないよう、気温の低い時間帯に実施してください。
なお、極端に気温が高い場合は、葉摘みを控えてください。
- ★収穫を開始する際は、食味や使用した農薬の収穫前日数等を確認してください。

1 気象経過と1か月予報

6月以降の気温は、6月第2半旬並びに第5半旬、7月第6半旬及び8月第1半旬を除き、概ね平年より高く推移しました（図1）。また、7月下旬から梅雨明けの8月初旬にかけて、降雨が続きました。

仙台湾気象台が発表した東北地方の3か月予報では、気温が平年より高く、降水量は平年より多い予想です（図2）。

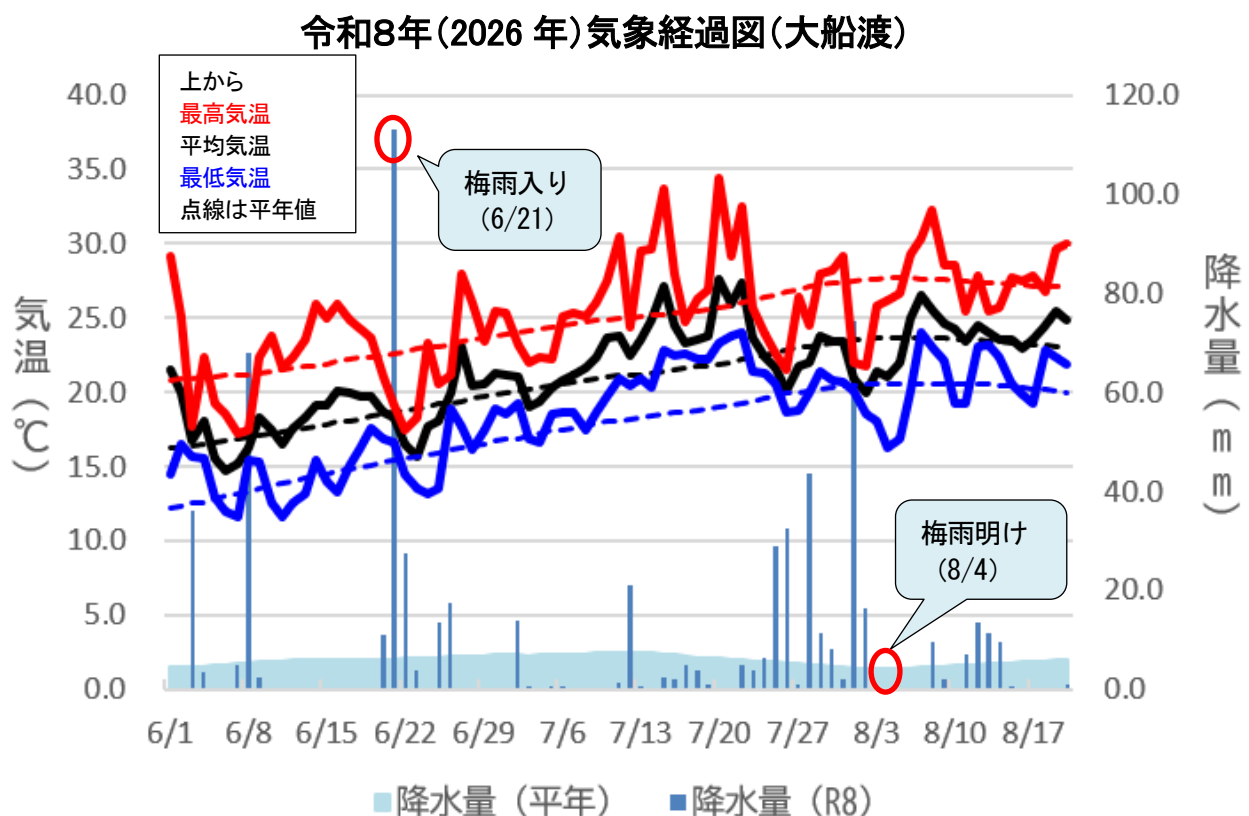


図1 気温、降水量の推移（大船渡アメダス観測点）

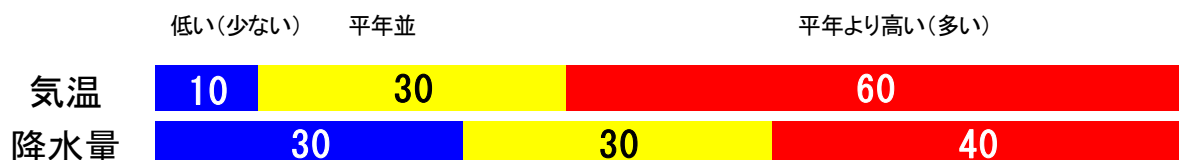


図2 東北地方3か月予報（仙台湾気象台、9月～11月）

2 生育状況

果実肥大は、8月21日時点で「ジョナゴールド」は平年比99%と概ね平年並、「ふじ」は平年比116%と平年より進んでいます（表1）。

「紅いわた」の果実品質は、8月21日時点で硬度が昨年より低くなっています（表2）。

表1 定点観測ほ場（陸前高田市米崎）におけるりんごの肥大状況

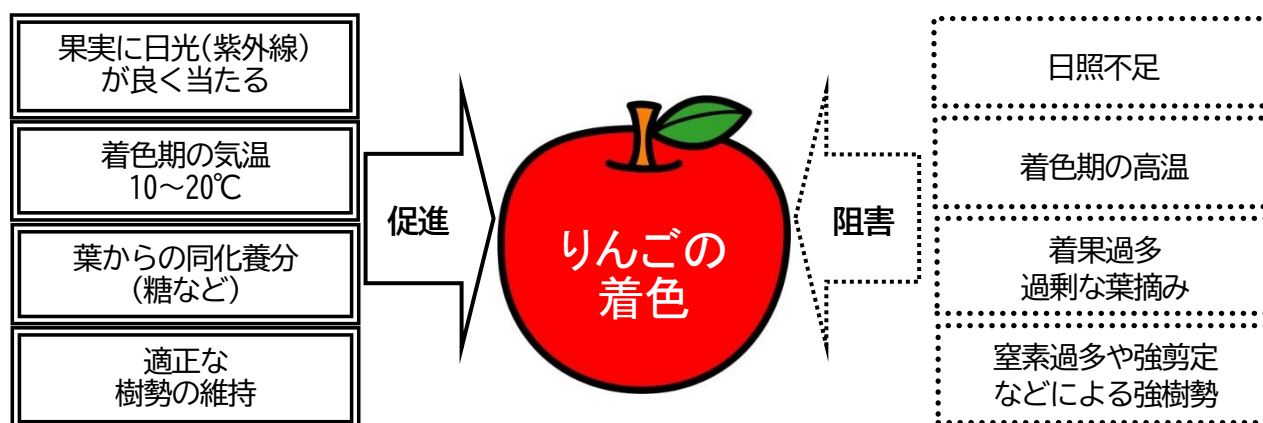
品種	満開期					果実肥大 (mm)							
						8月11日				8月21日			
	R8	平年	差	前年	差	R8	平年	前年	平年比 (%)	R8	平年	前年	平年比 (%)
ジョナゴールド	4/28	5/3	-5	4/28	+5	74.9	75.0	75.7	99.9	79.0	79.4	79.3	99.4
ふじ	4/30	5/7	-7	4/30	+4	78.7	68.4	70.5	115.0	84.7	73.1	74.7	115.9

表2 定点観測ほ場（陸前高田市米崎）における「紅いわた」の果実品質

調査年	調査日 (月/日)	横径 (mm)	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数
R8	8/21	81.7	227.3	18.0	11.3	4.7
R7	8/21	81.6	207.7	20.6	13.9	4.5
R7	9/1	84.8	249.3	17.4	15.1	2.8

3 赤色品種の着色管理

(1) 果実の着色が進む条件と着色が阻害される要因



(2) 葉摘み時期の目安

昨年より収穫期が早まることが予想されるため、遅れないよう注意！

「紅いわた」 → 収穫予定日の10～15日前頃から開始

(満開日起算から数えると、令和8年は8/21～8/26頃)

9月に収穫する品種 → 収穫予定日の10～15日前頃から開始

表3 各品種の葉摘み時期の目安

★:葉摘み時期の目安

品種名	葉摘み開始	7 月	8 月				9 月		
	時期目安	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
さんさ	収穫予定の 10～15日前			★ ★	収穫				
つがる					★ ★	収穫			
紅いわて					★ ★	収穫			

(3) 葉摘み・玉回しの方法

◎ 葉摘み

- ・葉摘みは2回に分けて行います。

1回目:陽光面が着色し始めたら、果実に直接触れている葉を摘む程度に軽めに行います。

2回目:半分程度まで着色したら、果実に日陰を作っている葉を摘みます。

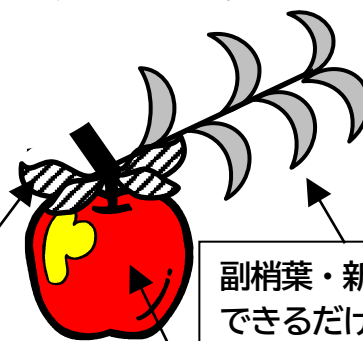
◎ 玉回し

- ・葉摘みと同時に収穫まで2～3回行います。
- ・陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように 15～20° の角度に慎重に回します。

一度に大きく回すと日焼けが発生しやすくなります。

果そう葉を中心に日陰になっている部分だけ葉摘みする

玉回しの際、つるの短い品種はキズを付けないように注意



副梢葉・新梢葉はできるだけとらない

(4) 着色管理の注意点

◎ 日焼け果の発生軽減

本年は、着色管理を行う際に気温が高いことが予想されるため、特に注意が必要です！

気温の高い時期に葉摘みをすることで、急激に果面温度が上昇し日焼けが発生しやすくなります。直射日光が当たる部分は、果実温度が上昇する日中に葉摘みを行い、午前中の涼しい時間帯は直射日光が当たらない部分（樹冠内部や下枝、西側等）を中心に行います。また、極端に高温の場合は、気温が低下する夕方に実施するか、実施しないようにしてください。

◎ 「紅いわて」

着色が進みやすい品種のため、葉摘みは果そう葉を中心に軽めに行います。また、ツルが短いので、玉回しの際は落果やキズを付けないよう注意が必要です。

4 落果防止剤の散布

(1) 落果防止剤の登録内容

ストッポール液剤は散布後8日以上、ヒオモン水溶剤は散布後5日以上経過してから収穫してください！

使用薬剤	希釈倍数	散布量	使用時期	使用回数
ストッポール液剤	1,000～ 1,500 倍	300～600 ㍓ ／10a	収穫開始予定日の25日～7日前 (但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける)	1回※
ヒオモン水溶剤	1,000～ 2,000 倍	300～600 ㍓ ／10a	収穫開始予定日の21～4日前	2回以内

※登録上の使用回数は2回以内であるが、着色及び熟期が促進され果実軟化のおそれがあることから1回とする

(2) 落果防止剤の散布方法

基本は効果が長く持続するストッポール液剤を使用します。

ただし、散布時期を逃し、落果がみられはじめた場合は、早く効果の出るヒオモン水溶剤を使用してください。

「きおう」は収穫開始予定の15日前頃、「つがる」は10日前頃が散布の目安です。収穫開始可能日と効果の持続する期間を確認し、散布日を決定して下さい。

ア ストッポール液剤

ストッポール散布日	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日
収穫開始可能日 (散布8日後)	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日
散布3週間後	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日
散布4週間後	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日

- ・効果が発現するまでに5～7日かかり、散布後3～4週間目まで持続します。
- ・着色、熟期が促進されるため、過熟にならないよう適期収穫に努めてください。特に「つがる」は軟化しやすいため、硬度重視で収穫してください。
- ・登録上の使用回数は2回以内ですが、果実軟化防止のため1品種1回の使用としてください。
- ・「きおう」は、散布時点で明らかに黄色い果実は障害果（内部裂果）の可能性が高いです。ストッポール液剤散布後は、8日以上経過しないと収穫できないため、明らかに黄色い果実は散布前に収穫してください。

イ ヒオモン水溶剤

ヒオモン散布日	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日
収穫開始可能日 (散布5日後)	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日
散布2週間後	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
散布3週間後	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日

- ・短期間（散布3日程度）で効果が発現し、散布後2～3週間程度は持続します。
- ・着色促進効果は、ストッポール液剤と同等かやや小さいです。
- ・果実の成熟促進作用は弱いですが、硬度への影響は年によって異なります。
- ・1,000倍で1回、あるいは2,000倍で2回散布します。
- ・2回散布の場合は、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから、必要に応じて1回目の散布の7～10日後に2回目の散布を行います。

(3) 落果防止剤の使用上の注意

- ・ 極端な高温時の散布や殺菌剤、殺虫剤との混用は避けてください。展着剤は不要です。
- ・ 薬剤は主に葉から吸収されるので、散布後4～5日は強い葉摘みを控えてください。
- ・ 周辺作物にかからないように十分注意し、使用後の散布器具は十分に洗浄してください。

5 見直し摘果

着果量が多いと果実品質が低下し、赤色品種の着色が進まない傾向があります。着果の多い部分や病虫害被害果、生育不良果、傷果、サビ果、日焼け果等を適宜摘果してください。

表4 主要品種の摘果強度と1果実あたりの葉数の目安（1果あたり葉数は1果そうを約12葉とした場合）

品 種	摘果強度	1果あたり必要葉枚数
紅玉	4～5頂芽に1果残す	50～60枚
ふじ・つがる・王林・きおう・さんさ 紅口マン・シナノゴールド・紅いわて	5～6頂芽に1果残す	60～70枚
ジョナゴールド、北斗 (3倍体品種)	6～7頂芽に1果残す	70～85枚

6 収穫期の目安（極早生品種～「紅いわて」）

本年の極早生品種～「紅いわて」の収穫期は早まる可能性が高いです。

食味を確認し、遅れないよう作業を進めてください。

(1) 収穫時期の目安

- ・ 満開日から収穫期を試算すると、収穫期は平年より早い予測です。
- ・ 生育期間の気温は平均すると平年より高く、今後9月の気温も平年より高い見込みであり、熟期が早まりやすい気象状態が予測されます。

⇒本年の早生品種の成熟期・収穫時期は、平年より早まる可能性が高いです。

⇒早生～中生の赤色品種は果肉先行で熟度が進み、着色が遅れる可能性があります。

表5 各品種の収穫の目安

品種	満開日起算	糖度 (Brix%)	硬度 (lbs)	デンプン 指数	カラーチャート 指数
さんさ	115日	13～14	13.5～14	2～3	2～3 (ふじ用地色)
きおう	115～125日 ※正常果	13以上	13～14	2～3	2.5～3.0 (きおう用表面色)
つがる	115～125日	12～14	13～14	3～3.5	2～3 (ふじ用地色)
紅いわて	130～140日	13以上	13以上	2～2.5	—

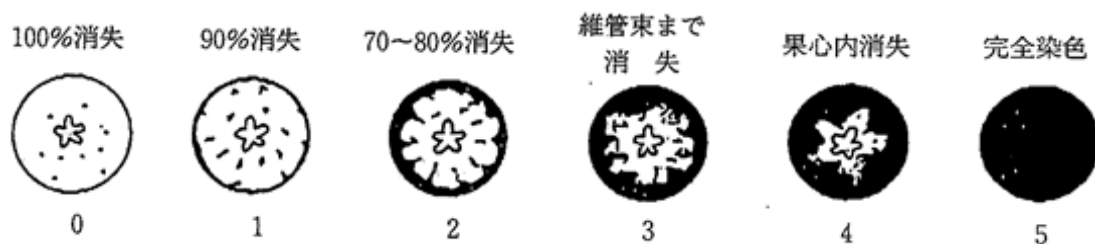


図3 デンプン指数（ヨウ素・ヨウ化カリウム溶液によるデンプン指数）

表6 定点観測ほ場（陸前高田市米崎）等における満開後日数から計算した収穫時期の目安

品種	収穫時期の目安	満開日	計算上の収穫期
きおう※	満開後 115～125 日	5/3	8/26 ～ 9/5
紅いわて	満開後 130～140 日	4/25	9/2 ～ 9/12

※定点観測ほ場にないため、近くのほ場の満開日を記載

(2) 各品種の収穫上の留意点

◎ 「さんさ」 ～地色とデンプンの抜けを見て収穫！～

- ・地色は、緑色 → 白味を帯びた緑色（やや未熟）→ クリーム色（適期）と変化し、地色の白味が消えたら収穫適期です。

◎ 「きおう」 ～正常果とつる浮き果(内部裂果)は区分して収穫！～

- ・黄緑色が少し残っているうちに収穫します。
- ・つる浮き果(内部裂果)などの障害果は正常果より早く熟するため、正常果の収穫が始まる前に、障害果を収穫します。障害果は軟化しやすいので、地色が進みすぎないうちに（濃い黄色になる前に）収穫してください。

◎ 「つがる」 ～硬度重視で、着色にこだわりすぎない！～

- ・着色を待ちすぎて収穫適期を過ぎると急激に果実軟化や油上がりが進むため、地色に緑色が残っているうちに収穫します。

◎ 「紅いわて」 ～着色だけでなく、必ず食味を確認！～

- ・着色だけで判断すると早採りになりやすいため、必ず食味を確かめてから収穫します。
- ・果実品質の低下を防ぐため、収穫は果実温の低い時間帯（午前中）に行い、速やかに予冷しましょう。特に大玉果は、硬度の低下が早い傾向があります。

7 夏季せん定、枝の管理

(1) 夏季せん定

ア 実施時期

8月下旬～9月上旬

イ 実施対象

徒長枝の発生が多く、樹勢の強い樹が対象です。

冬期のせん定でせん除すると考えられる新梢を必要最小限切除します。

ウ 実施方法

- ・側枝の上面から発生している長さ 30cm 以上の直上枝を間引きます。
30cm 以下の新梢でも混み具合をみて、日光・薬剤が通る程度に間引きます。
- ・せん除する新梢基部の数葉を残して切ると葉数を確保でき、次年の小枝の発生も期待できます。ただし、近くに小枝が多くある場合は基部からせん除してください。
- ・直上枝が多く、これらを切るによって葉数が不足するような場合は、十数葉残して働かせ、冬季せん定で整理します。

エ 留意点

- ・過大な夏季せん定は、樹勢を弱めて紋羽病の発病を誘発することがあるため、発病のおそれがあるところでは最小限としてください。
- ・夏季せん定の実施時期が早すぎると、一度形成された短～中果枝となるべき芽が二次伸長する場合があるため、適期に実施しましょう。

果汁が出てきて、デンプン臭を強く感じなければ収穫期です。

(2) 誘引

- ・立ち上がった枝をハの字になるよう誘引します。
- ・新梢の場合、枝がまだ柔らかく、かつ再び立ち上がることの少ない8月中～下旬に行います。

(3) ひこばえの除去

- ・病害虫の発生源や、樹を弱らせる原因となるので、適宜除去してください。

8 病害虫防除

収穫時期が近付いているため、薬剤散布の際は収穫前日数に注意してください。

近年、8月～9月にかけて「褐斑病」と「ハダニ類」の発生が多い傾向があります。

園地をよく観察し、対策が遅れないよう注意してください。

(1) 褐斑病

管内では、例年より早い6月下旬頃から発生が確認されています（図4）。

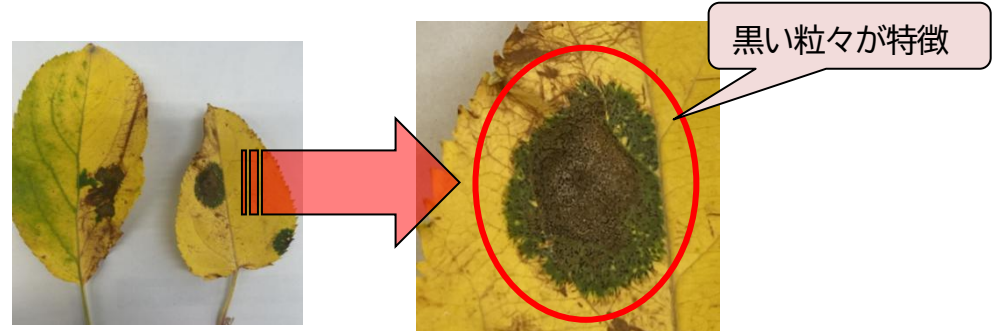


図4 褐斑病の被害葉

(2) 斑点落葉病

8月後半から9月にかけて再び発病葉が急増する傾向があります。不要な徒長枝は早めに整理し、薬剤のかかりやすい樹形の維持に努めてください。

(3) 輪紋病

6月下旬～8月下旬が主要な感染時期で、感染した果実は果実の成熟とともに発病します。発病適温は30℃で、収穫期が高温になると被害が目立つようになります。感染後の防除は難しいので、効果のある薬剤を定期的に散布し、感染を防止しましょう。

(4) 炭そ病

県内では、近年病原性の強い菌 *C. gloeosporioides* による被害が確認されています。令和8年は主な感染時期にあたる6月から7月にかけて降雨日数が多かったことから、秋期の多発が懸念されます。9月以降も防除を徹底して感染を防ぐほか、発病が見られた果実は見つけ次第摘み取り、園地の外に持ち出して処分しましょう。

(5) ハダニ類

6月後半からリンゴハダニ中心に発生がみられています。7月下旬以降発生は少なくなっていますが、8月下旬以降も気温が高い予報のため、定期的に発生を確認し、以下の通り対策を行ってください。

【8月以降にハダニ類が増加した場合の対策】

粘着くん水和剤（500 倍、収穫前日まで）又は、アカリタッチ乳剤（3,000 倍、収穫前日まで）を 7～10 日間隔で 2 回散布してください。

カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなります。

（6）カメムシ類

園地内をこまめに観察し、園地に大量の飛来がみられた場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を行います。



クサギ
カメムシ



チャバネアオ
カメムシ

参考）ビーエー液剤（ベンジルアミノプリン液剤）を利用したフェザー苗の育成法

フェザー苗～秋季の管理～

- ・ ビーエー処理：主幹延長枝の伸長が止まるまで、引き続き 10～15 日間隔で処理します。
フェザーの本数は、15 本以上を目標にします。
- ・ 摘心：長大なフェザーの先端を摘心し、枝を落ち着かせます。
- ・ 台風等の対策として、苗木は支柱に固定しましょう。



発出角度が狭いフェザーは、長大な枝になる可能性があるため、摘心を行い、主幹に対して勢力差のあるフェザーを確保しましょう。



R5 年 8 月 29 日時点



R6 年 8 月 26 日時点

1 年で樹冠が拡大しました！

【資料利用上の注意】

- この資料は、令和 8 年 8 月 7 日時点の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- 農薬は、使用前にラベルの表示事項を必ず確認の上、使用基準を遵守し、農薬使用者が責任を持って使用してください。また、農薬の飛散防止対策に努めてください。

【連絡先】 大船渡農業改良普及センター（0192-27-9918）